

(別添1)

【大和郡山市】
端末整備・更新計画

	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度
1 児童生徒数	5426	5345	5255	5179	4994
2 予備機を含む 整備上限台数	6239	6146	6043	5955	5743
3 整備台数 (予備機除く)		5345			
4 ③のうち 基金事業によるもの		5345			
5 累積更新率	0	100	100	100	100
6 予備機整備台数		801	0	0	0
7 ⑥のうち 基金事業によるもの		801			
8 予備機整備率	0	15	15	15	15

※①～⑧は未到来年度等にあつては推定値を記入する

(端末の整備・更新計画の考え方)

(更新対象端末のリユース、リサイクル、処分について)

○対象台数：6030台

○処分方法

- ・使用済端末を公共施設や福祉施設など地域で再利用 : 0台
- ・小型家電リサイクル法の認定事業者に再使用・再資源化を委託 : 0台
- ・資源有効利用促進法の製造事業者に再使用・再資源化を委託 : 6030台
- ・その他 () : 0台

○端末のデータの消去方法 ※いずれかに○を付ける。

- ・自治体の職員が行う
- ・処分事業者へ委託する

○スケジュール(予定)

令和7年10月 処分事業者 選定

令和7年11月 新規購入端末の使用開始

令和7年12月 使用済端末の事業者への引き渡し

○その他特記事項

(「⑤ 累積更新率」が令和10年度までに100%に達しない場合は、その理由)

(別添2)

【大和郡山市】
ネットワーク整備計画

	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度
十分なネットワーク速度が確保できている学校の割合	0%	0%	100%	100%	100%
アセスメントの実施有無		実施予定			
<p>(アセスメントにより明らかとなった課題) 現時点でアセスメント未実施 (課題解決の方法・予定) 十分なネットワーク速度が確保できていない場合は、今後実施予定のアセスメント結果を参考に、機器の整備や設定の見直し等を検討し、推奨帯域の確保を目指す。 (備考)</p>					

(別添3)

【大和郡山市】

校務DX計画

1 校務DXを推進する上での課題と解決策

(1) 校務処理の多くが職員に限定され、働き方に選択肢が少ない

校務系・学習系のネットワークを分離した運用をしており、校務系については職員室で有線接続しての利用に限定されており、場所の制約を受ける。学習系と校務系ネットワークの統合を行い、ロケーションフリーで校務系・学習系システムへ接続可能な環境を整備する。

(2) 学習系データと校務系データとの関係が困難

膨大な学習系データが生成されつつあるが、学習系と校務系ネットワークが分離されており、円滑はデータのやり取りができず、データを活かした教育の高度化が困難である。校務系・学習系システムを円滑に接続させることにより、それぞれのシステムが持つデータを低コスト・リアルタイムで連携させることを目指す。

2 目指すべき校務のあり方

ゼロトラストの考え方に基づき、アクセス制御によるセキュリティ対策を十分講じた上で、ロケーションフリーで校務系・学習系システムへ接続可能な環境を整備することで、教職員一人一人の事情に合わせた柔軟かつ安全な働き方を目指す。

また、校務系・学習系システムを円滑に接続させることにより、各種データをダッシュボード機能を用いて総合的に可視化し、学校経営・学習指導・教育政策の高度化を図ることを目指す。これにより一人一人に応じたきめ細やかな指導の充実や、学校経営判断の迅速化や適正化、教育委員会による学校支援や教職員のケアの充実、学校経営指導の効率化、資源配分の見直しに繋げることが期待できる。

セキュリティ面においては、校務系システムに蓄積される情報や、学校現場で取り扱う情報のうち機微度が高いものへのアクセスについては、セキュリティ技術を複数組み合わせることで情報セキュリティを確保する。また、技術的対策だけでなく利用者のリテラシーも高める必要がある。

(別添4)

【大和郡山市】

1人1台端末の利活用に係る計画

1. 1人1台端末を始めとするICT環境によって実現を目指す学びの姿

児童生徒が学習の中で1人1台端末などのICT機器を日常的に使用するとともに、自ら学習課題や学習方法を設定・選択・決定し、他者と協働しながら学習を進める児童生徒の学びの姿の育成を目指す。

2. GIGA第1期の総括

GIGA第1期の課題として、中学校における1人1台端末の活用率の低さが目立っていた。本市の小学校において「ほぼ毎日」1人1台端末を授業で活用している割合は、90.9%と全国・県平均を大きく上回る一方で、中学校では40.0%と全国・県平均を下回る結果となった。今後は、AIがますます進化し、社会の変容が予測される中で、1人1台端末を活用した情報教育は今後もより一層進めていく必要がある。1人1台端末を活用した反転学習など新たな学習指導方法の確立を進めていく。

3. 1人1台端末の利活用方策

1人1台端末の利活用の方策として、「個別最適・協働的な学びの充実」を目指して、児童生徒が自分の考えをまとめ、発表・表現する場面や、児童生徒同士がお互いの考えを共有する場面において1人1台端末を活用する。また、「学びの保障」の観点から、不登校対策の一環として家庭と学校をオンラインで繋ぎ、支援を行うことも可能である。

様々な場面において1人1台端末の効果的な利活用をとおして、すべての子どもたちの学びの充実を図るとともに、資質能力の育成を目指す。